専門演習　　伊藤 栄晃

授業概要

今年度のテーマは、18・19 世紀の英領西インド諸島のプランテーション制の歴史ならびに奴隷人口の問題です。このテーマは、一方でエリック・ウィリアムズ以来の古典的テーマであると同時に、ここ３０年来西洋の歴史研究の世界で最も注目されているものの一つです。それは、エスニシティとレイシズム、そしてその根底にあるジェンダーの問題という、欧米では今日非常に重要でデリケートな問題に正面からチャレンジする学際的試みだからです。まずスタンダードな著作を読みながら予備知識の拡充に努めてもらい、自由に様々議論し合います。そしてイギリスの公文書館で得た原史料を吟味し、各自の問題点を掘り下げてゆきます。原史料から歴史を探る楽しみとともに、人類の歩みの厳粛さを感じてもらうことが目標です。

授業計画

第 1 回	春期概要説明：テキスト講読の目的・狙い	第 16 回	春期成果の確認　秋期授業概要説明
第 2 回	準備的考察①：歴史人口学と家族史研究	第 17 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱ内容概略紹介
第 3 回	準備的考察②：「新大陸」とヨーロッパ	第 18 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む①
第 4 回	準備的考察③：大西洋奴隷貿易と西インド	第 19 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む②
第 5 回	準備的考察④：「ウィリアムズ・テーゼ」	第 20 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む③
第 6 回	まとめ：黒人奴隷の人口と家族	第 21 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む④
第 7 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む①	第 22 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑤
第 8 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む②	第 23 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑥
第 9 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む③	第 24 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑦
第 10 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む④	第 25 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅱを読む⑧
第 11 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑤	第 26 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰ・Ⅱについての総括的討論　各自論点の開示と相互吟味
第 12 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑥	第 27 回	原史料吟味①：ジャマイカ Slave Register の読解と感想
第 13 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑦	第 28 回	原史料吟味②：ジャマイカ Slave Register の読解と感想
第 14 回	『コロンブスからカストロまで』Ⅰを読む⑧	第 29 回	原史料吟味③：ジャマイカ Slave Register の読解と感想
第 15 回	春期成果のまとめと秋期準備：各自研究テーマの開示と課題小論文の指定	第 30 回	今年度演習の総括　研究の成果と課題について　各自テーマの開示

到達目標

・４年次卒業論文執筆準備として調査、データの作成と整理、文献批判・論文構想・小論文作成のためのスキル養成をします
・海外の時代も文化的背景も全く異なる人類同胞の経験を読み解き、地球的視野を獲得します
・プレゼンテーション能力を高め、実社会で職業人として活躍できる資質を養います
自分と異なる意見を尊重しながら、自分の意見をより良く鍛える力を獲得します

履修上の注意

・「西洋史入門」や「西洋史概説」、「西洋史資料講読」の受講を推奨します。ただし意欲さえあればこれらを受講していない諸君の参加も歓迎します。
・やむを得ない欠席や遅刻、早退は、事前に指導教員に通知し、了解を取らなければいけません

予習・復習

演習は、全員が力を合わせ、心を一つにして初めて成り立つ授業です。そのためにはプレゼンター（1 名指定）だけでなく、司会（1 名指定）、コメンテーター（1～2 名指定）その他のメンバーも、事前に時間を十分にかけ、入念に準備して臨むことが必要です。春期ではテキストを十分に読み込んで参加してください。秋期には、プレゼンターは報告 1 週間前までにレジュメ（発表骨子）を作成、指導を受けた上で皆に提示します。司会、コメンテーターその他のメンバーは、プレゼンターのために建設的な批判ができるよう、準備してください。

評価方法

・レジュメ並びに小論文の内容の的確さと発表者の論点の独自性、プレゼンテーションやコメントの姿勢の真摯さ、そして演習という共同作業にどれほど貢献できたかを、各回審査し、総合的に評価します。

テキスト

E.ウィリアムズ著　川北稔訳『コロンブスからカストロまで――カリブ海域史、1492－1969――』Ⅰ・Ⅱ巻（岩波書店）。なおイギリスで収集してきた原史料をはじめ、その他必要な文献資料はそのつど授業内で配布します。

専門演習　　現影 秀昭

授業概要

英語圏(や日本語圏)の子供がどのようにして母語を習得するのかという問題を扱う。はじめは 1 語と意味を結びつけて意思を伝えていた幼児が、生後 18 か月頃から 2 語以上からなる発話を産出できるようになる。2 語発話と意味が結びつく場合、特定の結び付け方にしかならならず、しかもそれは教わらなくとも出て来る。Mommy(ママ)と sock(靴下)の関係でいえば Mommy’s sock か Mommy’s putting on sock か Mommy’s putting sock on me 以外は殆どない。語用論の力が働くので場面から意味は容易に分る。3 歳を過ぎる頃 What’s that?だけでなく What do you think Cookie Monster eat? の様な複雑な疑問文も作れるようになる。どうやって Mommy sock の様な単純な子供の文法から複雑な大人の文法へと移行するのか？Progovac (2015)は cry-baby の様な複合語に幼児の 2 語期の「化石」が残存し、統語論がどう「進化」したかの手がかりがあると論じている(Kajita (2004)の「残存構造」も参照)。

授業計画

第 1 回	Introduction	第 16 回	Evolutionary Syntax (5)
第 2 回	The Syntax of Nonsententials (1)	第 17 回	Why Only Us? (1)
第 3 回	The Syntax of Nonsententials (2)	第 18 回	Why Only Us? (2)
第 4 回	The Syntax of Nonsententials (3)	第 19 回	Why Only Us? (3)
第 5 回	The Syntax of Nonsententials (4)	第 20 回	Constructing a Language (1)
第 6 回	The Syntax of Nonsententials (5)	第 21 回	Constructing a Language (2)
第 7 回	Words and Thoughts (1)	第 22 回	Constructing a Language (3)
第 8 回	Words and Thoughts (2)	第 23 回	Constructing a Language (4)
第 9 回	Words and Thoughts (3)	第 24 回	Constructing a Language (5)
第 10 回	Words and Thoughts (4)	第 25 回	Linguistic Typology of Templates(1)
第 11 回	Words and Thoughts (5)	第 26 回	Linguistic Typology of Templates(2)
第 12 回	Evolutionary Syntax (1)	第 27 回	Contiguity Theory (1)
第 13 回	Evolutionary Syntax (2)	第 28 回	Contiguity Theory (2)
第 14 回	Evolutionary Syntax (3)	第 29 回	Contiguity Theory (3)
第 15 回	Evolutionary Syntax (4)	第 30 回	Contiguity Theory (4)
		第 31 回	筆記試験

到達目標

論文や文献を読み、概要を作り、そこで取り上げられている問題について議論する。他の論文で同じ問題を取り上げながら、異なる答を主張しているものはないかにも注意する。疑問点を出発点として、同じ現象を取り上げて、再分析を行い、新たな答を見つける。

履修上の注意

積み重ねが大事ですから、休まないようにしてください。またノートを毎回きちんととってください。わからないことがあったら、どんどん質問して疑問を解消してください。

予習・復習

できれば分担表を作って、一緒に論文を読んでゆきたいと思います。背景知識となることを辞典、事典などであらかじめ調査してもらったり、現象について内省、コーパス調査、(思考)実験などをすることになると思います。毎回、配布された資料や、自分でとったノートを見て復習をし、知識の整理をしておいてください。

評価方法

出席点、ゼミへの参加度、提出物、筆記試験などを総合的にみて評価する。

テキスト

- 教科書名：印刷教材を配布します。参考文献は適宜紹介します(取敢えず Contiguity Theory.を挙げておく)。
- 著 者 名：Richards
- 出版社名：The MIT Press.
- 出 版 年：2016

専門演習　　西山 智則

授業概要

カルチュラル・スタディーズ　映像社会と現代文化の解読

映像イメージを読み解き、文化現象の意味を考察してゆく。映画、ドキュメンタリー、小説、あるいは漫画や雑誌などに描かれる現在の諸問題を考察することで、現代文化の理解を目標とする。カウンセリングブーム、うつ病の流行、携帯電話、携帯小説、性同一性障害、児童虐待、モンスター、怪獣、ホラー映画、少年犯罪、多重人格、身体障害、テロリズム、ファッション、ディズニーランド、アニメーション、オタクなど、現代社会を表象するテーマを、映画等の映像テクストを分析することで、議論してゆきたい。

授業計画

第１回	自己紹介　ゼミの方針	第 16 回	ジブリ映画論（1）
第２回	カルチュラル・スタディーズとは	第 17 回	ジブリ映画論（2）
第３回	『天気の子』と環境問題	第 18 回	『エヴァンゲリオン』と苦悩の若者たち
第４回	ディズニーランドの文化史	第 19 回	新海誠論―アニメ文化のゆくえ
第５回	クトゥルフ神話の文化史	第 20 回	日本の古典的怪談文化
第６回	Ｈ・Ｐ・ラヴクラフト論	第 21 回	『リング』とＪホラーの文化論
第７回	文学・映画における恐竜	第 22 回	日本における古典的妖怪文化
第８回	キングコングと猿の文化史	第 23 回	『妖怪ウォッチ』と現代日本
第９回	映画における原子力発電所	第 24 回	同性愛映画の文化論
第 10 回	原爆映画史――放射能の怪物たち	第 25 回	ＢＬ小説の文化論
第 11 回	レポート発表会	第 26 回	ライトノベル文化論
第 12 回	ゴジラシリーズと昭和/平成の時代文化	第 27 回	『ジョーカー』とアメコミの変貌
第 13 回	『シン・ゴジラ』とゴジラの変貌	第 28 回	同時多発テロの映画的側面
第 14 回	怪獣文化のゆくえ―『ポケモン』文化論	第 29 回	テロリズム時代の恐怖文化
第 15 回	日本アニメの歴史	第 30 回	スティーヴン・キング『ＩＴ』論

到達目標

映像イメージを読み解き、文化現象の意味を考察してゆく。現代思想を把握することで、映画、ドキュメンタリー、小説、あるいは漫画や雑誌などに描かれる諸問題を考察し、現代文化の理解を目標とする。

履修上の注意

マナーを尊重して楽しい授業にするために、積極的な参加を望みたい。映画の好きな学生は特に歓迎したい。時にセンセーショナルな映像を見ることがあるので、苦手な学生は注意してほしい。大量の資料を配布するのでファイルを持参。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末レポート（６０%）、提出物およびコメントペーパー（４０%）などの総合評価。

テキスト

プリントなどの配布資料　また参考文献ついては随時指定する。

専門演習　　福島 良一

授業概要

本演習は、主として日本の近現代史（幕末・明治維新期～現代）の分野から卒業論文のテーマを設定しようとしている学生を対象とする。夏休みに入るまでに、おおよその卒論テーマを決めてもらうことになる。

春期の授業では、論文の書き方や文献・史料の集め方などの説明を行うとともに、指定したテキスト（山内昌之・細谷雄一編『日本近現代史講義』）を使って発表と質疑応答を行いながら内容を検討していく。

秋期の授業では、テキストの講読と併行して、各人が設定したテーマについての研究報告（先行研究や文献・史料の紹介、問題の設定など）を行う。受講生全員とのディスカッションを通じて、論文の中身を練ることに努める。

４年次における卒論作成に向けて、日本近現代史の知識を養いつつ、論文作成法を身につけられるようキメ細かく指導する。

授業計画

第１回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第２回	論文の準備・作成方法について	第 17 回	卒論構想についての１回目研究報告①
第３回	文献・史料の収集について	第 18 回	卒論構想についての１回目研究報告②
第４回	テキストの講読①	第 19 回	卒論構想についての１回目研究報告③
第５回	テキストの講読②	第 20 回	卒論構想についての１回目研究報告④
第６回	テキストの講読③	第 21 回	卒論構想についての１回目研究報告⑤
第７回	テキストの講読④	第 22 回	テキストの講読⑪
第８回	テキストの講読⑤	第 23 回	テキストの講読⑫
第９回	テキストの講読⑥	第 24 回	テキストの講読⑬
第 10 回	テキストの講読⑦	第 25 回	卒論構想についての２回目研究報告①
第 11 回	テキストの講読⑧	第 26 回	卒論構想についての２回目研究報告②
第 12 回	テキストの講読⑨	第 27 回	卒論構想についての２回目研究報告③
第 13 回	テキストの講読⑩	第 28 回	卒論構想についての２回目研究報告④
第 14 回	各自の設定テーマの報告	第 29 回	卒論構想についての２回目研究報告⑤
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

到達目標

① できるだけ早めに卒論で書こうとするテーマをしぼっていく。
② テーマに関連する文献や史料を収集できるようにする。
③ 文献・史料を読み、内容を理解できるようにする。

履修上の注意

① 日本史、特に近現代史に興味を持ち、その分野から卒論のテーマを設定する予定の者が受講することを期待する。
② 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

予習・復習

① テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
② 自分の発表に際しては、レジュメを作成する。

評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

テキスト

『日本近現代史講義』山内昌之・細谷雄一編、中央公論新社、2019 年

専門演習　　湯浅 吉美

授業概要

日本史や日本文化に関連するテーマで卒業論文を書きたいと思っている諸君を対象に，そのための基礎力を身に付けることを目指す。卒業論文を書くには，題材を見つけ，研究の流れを追い，参考文献を読み，史料を調べ，途中経過を報告し，ふさわしい文体・ことばで書くなど，さまざまなテクニックが必要だが，それらについて指導する。最近まことに好適な本が出たので，それを輪読する形で進めてゆく。

授業計画

第１回	ガイダンス（授業の進め方など）	第 16 回	第７章　章立てを考える①
第２回	第１章　卒業論文の前に	第 17 回	第７章　章立てを考える②
第３回	第２章　卒業論文の題目を考える①	第 18 回	第８章　文章を書く①
第４回	第２章　卒業論文の題目を考える②	第 19 回	第８章　文章を書く②
第５回	第３章　論文の集め方と読み方①	第 20 回	第９章　注をつける①
第６回	第３章　論文の集め方と読み方②	第 21 回	第９章　注をつける②
第７回	第３章　論文の集め方と読み方③	第 22 回	第 10 章　「はじめに」を書く①
第８回	第４章　史料があってこそ①	第 23 回	第 10 章　「はじめに」を書く②
第９回	第４章　史料があってこそ②	第 24 回	第 11 章　「おわりに」を書く①
第 10 回	第６章　史料を読む①	第 25 回	第 11 章　「おわりに」を書く②
第 11 回	第６章　史料を読む②	第 26 回	第 12 章　下書きが書けたら
第 12 回	第６章　史料を読む③	第 27 回	第 13 章　提出締切が近づいてきたら
第 13 回	第６章　史料を読む④	第 28 回	全員が１回ずつ口頭発表する①
第 14 回	第５章　夏期休暇の有効活用①	第 29 回	全員が１回ずつ口頭発表する②
第 15 回	第５章　夏期休暇の有効活用②	第 30 回	全員が１回ずつ口頭発表する③

到達目標

自身の力で吉川弘文館版『国史大辞典』の説明を読めるようになること。これは，日本史や日本文化に関するテーマで論文を書こうとする際の，スタートラインにつくことを意味する。

履修上の注意

＊高校日本史程度の基礎知識は，各自の努力によって身に付けておいてもらいたい。
＊なるべく幅広い興味をもち，自力で調べようとする態度を求める。辞書や事典類を引くことを面倒がってはならない。また，積極的に発言するように。
＊遅刻や欠席の扱いについては，下の「評価方法」の欄を見ること。

予習・復習

【予習】毎回，次の回までの課題を指示するので，教科書や日本史辞典等を使って調べておく。
【復習】ノートを読み返して，時間中に獲た知識を整理し，関連事項を補充・補足するよう努める。

評価方法

期末ごとに筆記試験を行なって評価する。通年科目だけれども，春期末にも試験を実施することに注意。また演習科目であるから，受講態度を重視する。
配点比率：春期末試験得点 40%，秋期末試験 40%，受講態度 20%

テキスト

・教科書：『歴史学で卒業論文を書くために』 村上紀夫著（創元社，2019 年）…毎回持参すること。
・参考書：『角川新版日本史辞典』 朝尾直弘ほか編（最新版，角川学芸出版，2007 年）…必須ではないが，手元に持つことを強く奨める。一生モノになるといっても過言ではない。
・その他，必要に応じてプリントを配付する。

専門演習　　掛野 剛史

授業概要

明治から現代まで日本語で書かれた言語による表現を対象に卒業論文を書きたい人のための演習です。基本的には日本の近代小説を扱います。

さまざまな文章を大量に読み、調べ、考え、それによって、「感想」ではない「論」を作り上げることができるようにします。また発表者としては、自らの考えを分かりやすく人に伝えることができるように努め、聞き手としては人の発表をどのように聞き、どのような意見や質問を出せば良いかを考えます。互いに主体的に参加し、生産的な意見交換が出来るよう指導します。

またグループワークを行い、調査の方法や、資料の使い方なども学び、卒業論文に備えます。

授業計画

学外での実習を行う可能性がある。

第１回	ガイダンス・授業内容確認	第 16 回	前期レポートの講評
第２回	資料調査の方法について	第 17 回	前期レポートの相互批評①
第３回	発表の方法について	第 18 回	前期レポートの相互批評②
第４回	受講者による発表①	第 19 回	受講者による発表①
第５回	受講者による発表②	第 20 回	受講者による発表②
第６回	受講者による発表③	第 21 回	受講者による発表③
第７回	発表についての補足①	第 22 回	発表についての補足①
第８回	発表についての補足②	第 23 回	発表についての補足②
第９回	受講者による発表④	第 24 回	受講者による発表④
第 10 回	受講者による発表⑤	第 25 回	受講者による発表⑤
第 11 回	受講者による発表⑥	第 26 回	受講者による発表⑥
第 12 回	発表についての補足③	第 27 回	発表についての補足③
第 13 回	発表についての補足④	第 28 回	発表についての補足④
第 14 回	前期の振り返り	第 29 回	後期の振り返り
第 15 回	レポート作成について	第 30 回	レポート作成について
		第 31 回	卒論発表会への参加

到達目標

①日本の言語表現について自分なりの視点を持ち、それを言語化して考察することができるようになる。
②他者との討議によって、互いの立場を理解しながらお互いの考察を深め合うことができるようになる。
③大学において日本近代文学を専攻したと、自信をもって言えるようになる。

履修上の注意

遅刻欠席をしないこと。
作品を読んでくることは当然として、主体的、積極的な態度で臨むこと。
発言を求められたら、必ず発言すること。
学外での授業を行う可能性がある。
その他のルールは授業内で示す。

予習復習

【予習】決められた作品を読み、意見を考えておくこと。
【復習】授業を踏まえ、作品を読み直すこと。

評価方法

発表・レポート・授業への参加態度をあわせて総合的に評価する。

テキスト

『日本近代短篇小説選　昭和篇２』（岩波文庫）ISBN 978-4003119150

専門演習　　熊田 和典

授業概要

今や英語は国際語として確立しているが、その言語の歴史は波乱万丈ともいってもよいだろう。そもそも英語はイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロ・サクソン人の言語だった。英語は 5 世紀に彼らがブリテン島に侵出して生を受けて以来、フランスの一地方の領主が 1066 年イギリスを武力制圧した大事件など数々の外圧の影響を受けて、徐々に現在の形に変化していった。その歴史的過程を考察すると、英語の現在の姿が見えてくる。

英語を学んでいると、様々な疑問が浮かぶことがある。英単語の綴り字はなぜ発音通り書かれず不規則なのだろうか。複数形は単数形に s をつける（例えば books）はずなのに、なぜ child の複数形は children なのだろうか。このような疑問は英語を歴史的に考察すれば自ずと解けていく。この演習では、英語を過去から歴史的に分析し、現在の英語をさらに深く理解するとともに、英語学のものの見方を身につけていく。

授業計画

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	ノルマン・コンクエスト
第 2 回	古英語から近代英語まで(1) 概観	第 17 回	中英語の主な特徴(1) 一般的特徴
第 3 回	古英語から近代英語まで(2) 練習問題	第 18 回	中英語の主な特徴(2) 仏語の借用語
第 4 回	イギリスの 4 つの地域	第 19 回	中英語の主な特徴(3)借用語の年代と量
第 5 回	ケルト人、ローマ人の英国侵略	第 20 回	近代英語期：標準語の成立
第 6 回	ケルト語、ラテン語の影響	第 21 回	近代英語期：大母音推移
第 7 回	アングロ・サクソン人の英国侵略	第 22 回	ルネサンスが与えた英語への影響
第 8 回	アングロ・サクソン人の文明	第 23 回	宗教改革が与えた英語への影響
第 9 回	古英語の主な特徴(1) 名詞を中心に	第 24 回	シェイクスピアの英語の特徴
第 10 回	古英語の主な特徴(2) 動詞を中心に	第 25 回	綴り字問題
第 11 回	古英語の主な特徴(3) 語順と語彙	第 26 回	規範文法の成立
第 12 回	ヴァイキングの英国侵略	第 27 回	アメリカ英語
第 13 回	北欧語の影響(1) 本来語と借用語	第 28 回	英語の辞書
第 14 回	北欧語の影響(2) 北欧語の借用語	第 29 回	語源
第 15 回	春期の総まとめ	第 30 回	秋期の総まとめ

到達目標

古英語、中英語、近代英語それぞれの特徴を把握して英語の歴史全体を理解するとともに、英語学の基礎を学び、卒業論文を書くための土台となる力を身につけることを到達目標とする。

履修上の注意

この演習は英語の「歴史」を扱うため、英語が苦手な方でも、英語の歴史に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等はほとんど日本語で書かれたものを使用する。専門科目の「英語史」の講義を受講する必要はない。

予習・復習

授業の内容の深い理解のために、毎回テキストを読んで授業に望み、その後しっかりと復習することが望ましい。

評価方法

授業内での発表（春期・秋期各一回）、レポート（春期・秋期各一回）を重視し、さらに学習に対する姿勢も考慮に入れて、総合的に評価する。

テキスト

- 教科書名：『英語の歴史』（スタンダード英語講座 3）
- 著 者 名：渡部昇一
- 出版社名：大修館書店
- 出 版 年：1983 年

専門演習　　小島 弥生

授業概要

人間の日常的な行動やふるまい、態度について「心理学的な観点で」卒業論文を執筆したいと考える学生を中心に、心理学での研究のあり方やその限界点を理解すること、および実際の論文執筆に必要な心理学の研究方法を理解することを指導する。

春期は教員の専門領域である社会心理学を題材とし、過去の社会心理学の著名な論文を「批判的に読み返す」ことを通して、心理学の研究のあり方や限界点を理解できるように指導する。この理解を通し、４年生での卒業論文執筆に必要な「文献講読力」の修得を目指す。秋期は、卒業論文の執筆を見据え、具体的なテーマ探しを各学生が行う。問題としたい社会現象や心理的過程についての先行研究（文献）を調べ、それらの文献を読みこなす「情報分析能力」の修得を学生に求め、指導を行う。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（春期の演習内容について）	第 16 回	ガイダンス（秋期の演習内容について）
第 2 回	講義(1) 心理学の論文の具体例	第 17 回	発表準備(1) プレゼン資料の作り方
第 3 回	講義(2) 心理学の多様な研究方法	第 18 回	発表準備(2) 効果的なプレゼン方法
第 4 回	発表順序の決定と講読文献の概要説明	第 19 回	発表順序の決定と文献の示し方
第 5 回	講義(3) 文献の発表の仕方	第 20 回	発表 ・受講学生の人数により、１人当たりの発表回数は変動する。 ・夏休みに文献検索を行うことを前提とし、その文献に基づいて、自らの問題意識や検討したい事象について、他者に説明することを練習する。
第 6 回	指定書籍（教科書）の講読 ・受講学生の人数により、１人当たりの講読担当回数は変動する。 ・単に担当章の説明を求めるだけではなく、内容を題材とした討論も行う。また、内容に関する教員からの補足説明等も入る。	第 21 回	
第 7 回		第 22 回	
第 8 回		第 23 回	
第 9 回		第 24 回	
第 10 回		第 25 回	
第 11 回		第 26 回	
第 12 回		第 27 回	
第 13 回		第 28 回	卒業論文の準備(1) 論理的整合性とは
第 14 回	春期のまとめ(1) 文献の探し方	第 29 回	卒業論文の準備(2) 論文の章立て準備
第 15 回	春期のまとめ(2) 問題意識の持ち方	第 30 回	全体のまとめ

到達目標

社会心理学を中心とする心理学の考え方を用いた「卒業論文」を執筆するために必要な力（文献講読力・情報分析能力）が修得でき、関心のあるテーマについての先行研究を自分で調べられ、内容をまとめられるようになる。

履修上の注意

- ３回の遅刻を欠席１回分と同等に扱うので注意してほしい。
- 発表を担当する回での無断欠席は厳禁。必ず発表回は回ってくるので、計画的に準備を行うこと。
- 学外で演習を行う可能性がある（例．先行研究探しの回で国立国会図書館に出向く、等）
- 欠席する場合や遅刻しそうな場合に、事前にメール等で教員に事情を説明すること。

予習・復習

春期）自身の発表回はもちろんのこと、発表回以外であっても、各回で発表される章を事前に通読しておく。
秋期）課題を不定期に出すことになるので、ゼミ時間外での学習時間が増えることを覚悟してほしい。

評価方法

授業への参加態度、発表時のレジュメ、発表の仕方、討議における発言、夏休みや年度末に課すレポートの内容などをふまえ、総合的に評価する。

テキスト

教科書は使用しない。

専門演習　　布村 育子

授業概要

教育現象を多面的に考えるゼミです。

最初の 15 分間は、教員採用試験問題を研究する時間です。単に問題を解くのではなく、採用試験の問題が、何を根拠にして、どう出題されているのかを研究します。

残りの時間は、教育学及教育社会学から、教育問題を考察する時間です。これまで、学力低下、虐待、いじめ、不登校、親の教育力、校則、部活動、生徒指導、個性化教育、教育費、教員の事件、教員と生徒の恋愛といったトピックスを紹介し、その問題について考察してきました。教育問題は、常にメディアを通して伝えられている為、その問題に応じて上記の主題以外をとり上げる場合もあります。

毎回ではありませんが、学生同士のディベートも取り入れています。

秋期には、春期で蓄積した知識と技能を活用し、各ゼミ生が自分の興味ある事柄や卒業論文に書きたい内容についてレジュメを作成し、それついて発表し議論をする時間とします。

授業計画

第 1 回	春期演習の運営上の説明	第 16 回	秋期演習の運営上の説明
第 2 回	歴史から教育問題を考察する方法	第 17 回	新学習指導要領の考察（授業はどうなるのか）
第 3 回	1950 年代の教育問題	第 18 回	新学習指導要領の考察（教員はどうなるのか）
第 4 回	1960 年代の教育問題	第 19 回	新学習指導要領の考察（生徒はどうなるのか）
第 5 回	1970 年代の教育問題	第 20 回	新学習指導要領の考察（学校はどうなるのか）
第 6 回	1980 年代の教育問題	第 21 回	発表レジュメの書き方
第 7 回	1990 年代以降の教育問題	第 22 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 8 回	戦前の教育問題の捉え方	第 23 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 9 回	現代の教育問題を考察する方法	第 24 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 10 回	教師に関する教育問題	第 25 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 11 回	生徒に関する教育問題	第 26 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 12 回	教育改革に関する教育問題	第 27 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 13 回	教員組織に関する教育問題	第 28 回	各ゼミ生の発表の総括
第 14 回	教育問題の語られ方を相対化する	第 29 回	今後の教育に関する議論
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

教育は、理想論として語られることが多いのですが、教員になる人には、是非「事実は、どうなっているのか？」という視点をもってほしいと思っています。そのような視点を身に付ける為のゼミだと考えてください。先生と生徒、という 2 者関係だけで物事を考えるのではなく、社会制度まで含めた広い視野で物事を考えられることを目指しています。

履修上の注意

教職課程を履修している学生が対象です。ゼミの運営が「教員になる」ことを前提としているため、例えば 3 年次途中で「教員免許を取らない」ことを選択した場合、「教員免許を取れない」状況になった場合には、その後のゼミの内容に興味関心を失う可能性があると思います。ゼミを選択する際には、そのことをよく考えて選択してください。

予習・復習

予習：こちらが指示する教育問題について、あらかじめ予備知識を得ておく。

復習：ゼミで扱ったトピックスについて書かれてある文献を自ら探して読む。

評価方法

受講態度 60%　春期と秋期の最後に提出するレポート 40%。出欠席の取扱いは教職課程の授業と同じ扱いにします。注意してください。

テキスト

ゼミの中で指示します。

専門演習　　森田 直美

授業概要

本授業は、日本古典文学を題材として卒業論文を執筆するための演習科目です。
作品を読み解く上での疑問点（論点）を発見し、調査・分析を通して自分なりの結論を導き出す過程を、 実践的に学びます。また、各回とも発表後に受講生による質疑応答を行い、さまざまな意見を出し合うことで 発表内容に対する考察を深めていきます。 前期は、国宝源氏物語絵巻をテーマとして授業を進めます。 後期は、個々の受講生に、興味のある作品・テーマについて発表していただきます。この演習を通して、テーマの定め方、文献調査の方法、考えたことを正確に文章化する力を習得しましょう。

授業計画

第 1 回	今後の授業の進め方について	第 16 回	レポート課題の総評
第 2 回	『源氏物語』について	第 17 回	『百人一首』の論文を読む①
第 3 回	紫式部とその時代について	第 18 回	『百人一首』の論文を読む②
第 4 回	さまざまな源氏絵について	第 19 回	『百人一首』の論文を読む③
第 5 回	国宝源氏物語絵巻について	第 20 回	『源氏物語』の論文を読む①
第 6 回	国宝源氏物語絵巻を読む①	第 21 回	『源氏物語』の論文を読む②
第 7 回	国宝源氏物語絵巻を読む②	第 22 回	『源氏物語』の論文を読む③
第 8 回	国宝源氏物語絵巻を読む③	第 23 回	卒業論文テーマの定め方について
第 9 回	国宝源氏物語絵巻を読む④	第 24 回	各種論文データベースについて
第 10 回	発表資料の作り方	第 25 回	受講生による発表①
第 11 回	受講生による発表①	第 26 回	受講生による発表②
第 12 回	受講生による発表②	第 27 回	受講生による発表③
第 13 回	受講生による発表③	第 28 回	受講生による発表④
第 14 回	受講生による発表④	第 29 回	発表後の補足・補充調査の報告
第 15 回	半期のまとめ	第 30 回	半期のまとめ
		第 31 回	期末テスト

到達目標

① 『源氏物語』と、さまざまな源氏絵について理解する。
② 論文テーマの定め方、調査文献の探し方を習得する。
③ 掲げたテーマに対して、調査・分析を通して自分なりの結論を出し、文章化できる。

履修上の注意

日本古典文学や、その周辺文化に興味をもつ方の受講を臨みます。 第１回授業以前に、初学者向けハンドブックや高校時代の教科書等で、『源氏物語』の概要や主要登場人物を調べておくこと。また、「日本文学入門」「日本文学講読（古典）」と併せて受講することをお勧めします。

予習・復習

予習：次回の授業内容（受講生の発表内容）を予告するので、下調べをしておく。
　　次回発表担当者は、配布資料を 作成し、発表練習をする。
　　復習：授業のプリントやノートをまとめ直す。発表担当者は、質疑応答を踏まえて補充調査を行う。

評価方法

授業への参加態度（質疑応答での発言を含む）30%、発表の内容 40%、期末テスト 30%を目安として、総合的に評価します

テキスト

プリントを配布します。